

愛知県医師連盟ニュース

発行所
愛知県医師連盟
〒460-0008
名古屋市中区栄4の14の28
愛知県医師会館内
TEL.052(251)2500

日本医師会副会長羽生田たかし特集号

平成25年4月10日、日本医師会副会長羽生田たかし君を励ます会が愛知県内6会場で行われ、柵木愛知県医師連盟委員長の挨拶に続き、羽生田先生が立候補に至った経緯、活動方針等を話されました。



ご挨拶

愛知県医師連盟委員長

柵木 充明

(ご挨拶の要旨)

日本医師連盟(日医連)は、今年7月に行われる参議院選挙の組織内候補者に日本医師会(日医)副会長の羽生田たかし先生を推薦する事を決定しました。組織内候補とは、医師連盟の全勢力、人、金、物、これらすべてを一人に集中させ、日医連が全力を挙げてその人の当選を勝ち取るものです。6年前の武見敬三先生、3年前の西島先生といずれも苦杯を喫し、参議院の議席を失ってしまいました。その間、歯科医師連盟、薬剤師連盟、看護師連盟は揃って組織内候補を擁立しています。今度こそは絶対に失敗は許されません。必ず勝利を勝ち取らねばならないと強く思っています。

羽生田先生は、日医常任理事として12年、副会長として3年経験され、見識、経歴とも申し分なく、医師会内部だけでなく政界とも多くの接点を持っておられます。しかも温厚な人柄から多くの人に支持されるなど国民のため、会員のために働いてくれる人物であることから羽生田先生を次期参議院議員選挙の候補者として推薦することに決定しました。

愛知県医師連盟も羽生田たかし先生に全勢力を集中させ、全力を挙げて支援します。会員先生方の御協力を心からお願い申し上げます。



ご挨拶

日本医師会副会長

羽生田たかし

皆様、こんにちは。ご紹介を賜りました羽生田たかしです。現在、日本医師会の副会長という立場で仕事をさせて頂いております。柵木委員長よりご紹介頂きましたように、1月15日の日本医師連盟執行委員会で日本医師会の代表として次期参議院選挙への立候補を御承認いただき、出馬を決意しました。

各医療関係団体それぞれが代表候補を国会に送っていますが、日本医師会を代表する者はこの6年間、誰もいませんでした。いわゆる特定看護師の問題、看護師に色々な医療行為をさせようという動きがあります。またエバデルがOTC薬になったように、今後は生活習慣病の初期治療は薬剤師に検査をさせて、高血圧や糖尿病の薬を薬局で出させようという動きもあります。色々な形で他の職種からの国会議員が中心となり、それぞれの職域団体の権益を守るだけでなく業務拡大という動きが強くなっています。これは日本医師会の代表者が国会にいなかったということが大きな影響を及ぼしていると感じています。各医療関係団体の方々がそれぞれの職域を守る、擁護する動きはありますが、日本の医療はどうあるべきかという政策を政府に対して提言するという事はありません。医療に携わるプロとしての医療政策を政府に訴える纏め役は日本医師会を置いて他にはありません。それが私が出馬をする決心の1つです。私は日本医師連盟の代表として出馬しますが、日本医師会だけでなく、日本病院会など他の医療関係団体すべてを含めて、その代表として立候補をし、それらの意見を纏めて政府に提言出来る医療関係者の国会議員団体を作りたいと思っています。

ポスターには国民の皆様が見て分かりやすい言葉ということで、「すべての人に優しい医療を」という基本理念としました。しかしこの基本理念には数え切れない程の問題を抱えているとも思っています。その1つは公

的医療保険制度が危機的状況にあることで、これを守ることが私に課せられた第1の命題であると思っています。各保険者の経営状況悪化は皆様方ご存じのとおりで、経済全体の影響が社会保険や国民健康保険に影響します。また皆保険といいながら無保険者が相当数いる事も事実です。そういった時に、政府が何を考えるのか？ 約10年前、小泉政権の時に市場原理主義という言葉がマスコミ等でもはやされましたが、再び、この市場原理主義が頭を持ち上げつつあります。安倍政権の中に当時の方々が何人か加わっており同じ方向に進む危険性もあります。10年前に行われた、医療費の伸びから毎年2200億円を削減するという政策は二度とあってはなりません。

現在、公的医療保険制度の存続には多くの問題がありますが、TPPへの参加がその危険性をさらに増強すると考えています。現在、TPP交渉に参加表明している11か国との交渉によって日本の参加に対して賛成をいただいていますので、早ければ7月の中頃にはTPPへの参加になると推察しています。自民党はTPPの参加にあたっては、聖域が守られなければ脱退も辞さないという決議をし、それをもって安倍総理はオバマ大統領と会談をしてTPP参加を表明しました。アメリカの商工会議所等々で勢力を持っているのは製薬会社と保険会社で、製薬会社はアメリカの薬を売るために中医協にまで参加をさせろと言っています。それは日本の公的医療保険では未収となる事が無いからです。ジェネリック薬品についても、我が国のように特許が短期間で切れるのではなく、もっと長くしてジェネリックは出来るだけ造らせないという方針です。日本のジェネリックも使わず、アメリカのジェネリックを使えと言ってくると予想されます。

民間保険はどのような形で日本に入ってくるのでし

ようか？ アメリカは民間保険によって医療が行われているため、患者さんに最初に聞くのは「どうされましたか？」ではなく「あなたが入っている保険はなんですか？」です。そう言ったことに代表されるように、民間の保険会社はその人の医療を決定する権限を持っているような格差医療が日本に入ってくることは絶対に阻止しなければなりません。今の公的医療保険制度の中に民間保険が入る事はないと思いますが、財政の厳しい健保組合、あるいは政府がどう考えるか？ そういった民間保険会社に少し任せてみようかという考えが必ず出てきます。その時には診療報酬の給付範囲が縮小するという事が必ず起こります。

一昨年、先生方に大変ご苦勞を頂いて署名活動をして頂いた受診時定額負担の件ですが、これは免責制の第一歩となる危険な制度であったと思います。770万人以上の御署名によって一旦は終わりになりましたが、いつ、もう一度出てくるかわかりません。もし受診時定額負担100円が実行されていたら、今頃は300円になり、5年後には500円、10年後には1000円、2000円になり、保険に対しての免責制が導入されていくと思います。そのようにして患者さんへの負担が増えれば、相当悪くなるまで受診しないという危険な事態が起こると思われま

す。そういったことを阻止するために、私は立候補をする決意をしました。

国会での発言力は、羽生田と言う票が何票出たかで決まります。羽生田と言う珍しい名前ではありますが覚えて頂き、7月の投票に結び付けて頂ければ大変ありがたいと思います。

どうぞ、よろしく願い申し上げます。有難うございました。

各会場における“羽生田たかし君を励ます会”の様子



愛知県医師会館にて



一宮市医師会館にて



東海市商工センターにて



岡崎市医師会館にて



豊田加茂医師会館にて



豊橋商工会議所にて

各医師会長、役員らと羽生田先生



愛知県医師連盟副委員長 山本橋先生



中川区医師会長 坂野哲哉先生



南区医師会長 伊藤剛先生



日本医師連盟常任執行委員 加藤寿彦先生



愛知県医師連盟参与 加藤雅通先生



昭和区医師会長 立松廣先生



愛知県医師連盟参与 城義政先生



西名古屋医師会長 今村達雄先生



一宮市医師会長 野口良樹先生



尾北医師会長 渡部敬俊先生



稲沢市医師会長 田中一馬先生



津島市医師会長 杉山秀樹先生



日本医師会代議員 森瀬雅典先生



東海市医師会長 松島英夫先生



知多郡医師会長 竹内正先生



半田市医師会長 杉田市朗先生



愛知県医師連盟参与 岩瀬敬紀先生



刈谷医師会長 野村英雄先生



岡崎市医師会長 村山憲先生



西尾幡豆医師会長 浅井清和先生



豊田加茂医師会長 近田研先生



愛知県医師連盟副委員長 伊藤宣夫先生



豊橋市医師会長 権田隆実先生



豊川市医師会長 大石明宜先生



愛知県医師連盟参与 樋口俊寛先生



田原市医師会長 富永潤先生

明日の日本のために、みんなの力を結集しよう！

参議院選挙比例代表に^{はにゅうだ}羽生田たかし日本医師会副会長を擁立する意義

愛知県医師連盟選挙対策委員会

今、日本の医療は危機に瀕しています。持続可能な社会保障制度を目指すとして、少子高齢社会を見据えた医療制度の改革が企図されております。増加し続ける医療費の抑制は政権与党の最重要課題であり、政権基盤の安定に伴いその抑制圧力はさらに強まります。医療に携わる人物を国政の場に送り込み、政権与党内から医療のあるべき姿を訴えなければなりません。

医療における消費税問題、TPP参加に伴う営利企業の参入、薬価への外圧問題など高度な政治的判断を要する医療政策問題が山積しており、今ここで声を上げなければ、国民の安心・安全はおろか我々医療関係者の生活すら危ぶまれることとなります。医師の代表を国政の場に送り込むことは必須です。

歯科医師会、薬剤師会、看護協会はそれぞれ独自の職域代表を国会議員として擁していますが、現在、残念ながら日本医師会にはいません。このような状況を打破するには、すべての医師会員が一丸となって支援できる候補者を次期参議院議員選挙に擁立し、必ず勝たなければなりません。万一落選するような結果となれば、日本医師会の政治力は失墜し、今後の医療政策遂行に致命的な打撃となります。

日本医師会は、政権与党としての実績、世論の動向等を勘案し、自民党から次期参議院選挙比例代表に組織内候補を擁立する事にしました。医師会員への知名度が高く、政界との接点を多く持っている人物として、日本医師会副会長^{はにゅうだ}羽生田たかし氏が最適であるとの結論に至り、同氏を擁立する事となりました。

**日本の医療を守るのは、我々医師会員の一人一人の手の中にあるのです。
今こそ我々医師会員の力を結集しましょう！**

羽生田たかし支援活動へのお願い

羽生田先生に対する支援活動の一環として、羽生田たかしサポーター名簿の作成、提出をお願いしています。東京の羽生田たかし後援会では、皆様から提出頂きました名簿を基に、ネット選挙に向けて電子メール等のデータ入力作業を進めています。誠に恐縮には存じますが、羽生田たかしサポーター名簿は集まった都度、随時の提出をお願い申し上げます。